

振興局名	事業実施 主体名	被害防 止計画 の目標 年度	年度別補助金交付状況(円)											1 事業の導入 及び 取組の経過	2 当初事業実施計画の 目標が未達成である 原因及び問題点	3 実績及び 改善計画	4 改善方策
			R4			R5				R6							
			推進事業	整備事業	緊急捕獲 等対策事業	推進事業	整備事業	緊急捕獲 活動支援 事業	シカ緊急捕 獲活動支 援事業	推進事業	整備事業	緊急捕獲 活動支援 事業	シカ緊急捕 獲活動支 援事業				
胆振	洞爺湖町 鳥獣被害 防止対策 協議会	R6	354,832	0	841,000	1,116,000	0	846,000	0	501,000	0	832,000	0	本町内における有害鳥獣による農林産物被害の増加に伴い、平成22年4月に洞爺湖町鳥獣被害防止対策協議会を設置。鳥獣被害防止計画を策定し、以来、被害防止のための有害捕獲等の被害防止対策を総合的かつ計画的に実施することで、有害鳥獣による農林産物被害の軽減及び住民生活への被害発生防止を目的として、鳥獣被害防止総合対策交付金を活用した事業を実施している。 (1)緊急捕獲活動支援事業を活用し、エゾシカ捕獲に係る経費を助成することで捕獲 圧を高めている。 (2)平成21年度からくりわなの購入による捕獲体制の強化を図っている。 (3)鳥獣被害防止総合対策交付金(整備事業)を活用し、エゾシカ電気侵入防止柵の整備を図り、農作物被害の軽減及び被害発生防止を図る。	令和5年度の被害実績をみると、被害金額、被害面積のいずれも目標年値を達成しているが、目標年度の令和6年度まで目標値の維持ができなかった。エゾシカの捕獲頭数は年々増加傾向にあり、想像以上のエゾシカ生息頭数の増加により全体的には目標値を維持することができなかった。 目標達成に至らなかった要因としては、ばれいしょ・スイートコーン・小豆等の単価の高い作物の被害が多いことや、エゾシカの生息頭数の増加に伴い捕獲が不十分であったことが考えられる。 また、町では、地元猟友会及び町職員を構成員とする、鳥獣被害対策実施隊を組織し、有害鳥獣の効果的な捕獲と捕獲員の増員を図っているが、実施隊員(猟友会員)の高齢化に伴い、捕獲の担い手がまだまだ不足している現状にある。	右表のとおり	エゾシカの捕獲頭数は令和2年度の180頭が最高捕獲頭数になり令和2年度以降毎年120頭以上の捕獲があるが、生息頭数の増加で被害は増加傾向にある、近年エゾシカの生息数が増加していることが懸念される。 被害を防ぐためには、洞爺湖町鳥獣被害対策実施隊による捕獲圧の強化を図りつつ、有害鳥獣が住みにくい環境整備を地域ぐるみで行っていくことが重要であるため、更なる電気侵入防止柵の導入も検討し、地区単位で適切な有害鳥獣からの防衛と捕獲を行うことで、設置圃場の被害が減少するとともに、地区の鳥獣被害防止への意識を高めることが期待される。 また、猟友会員の高齢化に伴う鳥獣被害対策実施隊の減少対策として、ドローンなどの最先端技術の活用や、新人ハンターの育成と新たな担い手ハンターを見つけていくとともに、後継者の育成環境の整備を図っていく。 さらに、捕獲に頼るばかりだけではなく、農業者をはじめとした地域住民が自らの手で防除活動を行っていくことで、有害鳥獣による農作物被害等を最小限に食い止め、農作物の安定的な生産の場の確保を図っていけるよう、引き続き鳥獣被害防止対策協議会を通じて、地域一体となって防除に取り組む必要性を認識し、防除体制を整えていく。

[illegible]